
騎士の剣 < 8人の騎士たち >

JOKER

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

騎士の剣 < 8人の騎士たち >

【Nコード】

N 4 3 4 2 M

【作者名】

J O K E R

【あらすじ】

全て自作です。メインに騎士の物語となっており夢の中での騎士の物語という独創的な物語となっております。主人公のシードはいたって普通の高校生ある日ふと見た夢でシードの真実を知る。それはシードは8人目の選ばれし騎士だった。全ての騎士はシードを含めて8人。それぞれの騎士の特殊な能力、それはいったいなんなのか！？

古から語り続けられている騎士の伝説、はるか昔騎士たちはそれぞれの地方の「守護神」とされていたが、ある日1人の騎士が善の道

から悪の道に走る。その騎士の目的とは一体なんなのか！？その裏切った騎士は謎の軍隊を率いて新たな帝国を築いた。シードたちは裏切った騎士が率いる謎の軍隊を倒しすことを誓う。シードたちと謎の軍隊との激しい戦いが今始まる！！

? プローグ (前書き)

? プローグ

？ プロローグ

ある日、僕はふと目覚めたそこは夢の世界であった。辺りを見渡すと草原が広がっていた。遠くに王国があるのが見えた。

「あの王国は何だろう？」と疑問に思い王国まで歩き始めた。

しかし、歩いても歩いても一向に近くならなかった。「えっ」と驚いた。

「なぜ近くならないんだ」と考えていたとき。

前から少女が歩いてきた。

少女は僕に言った。「お待ちしておりましたよシード殿」

シード

は何んの事が疑問に思った。

「えっ何の事ですか？」

「後でお話します」

な物をくれた。

とってシードに輪のよう

つけてください」と言われ、僕は手首につけた。

「これを手首に

そうす

るといつの間にか瞬間移動をしたかのように気がついたらみ知らぬ場所にあった。

「ついてきて来てください」

シードは何が何だかわからなかった。とにかくシードは少女について行った。

しばらく歩いた、もう疲れ果てたとき目の前に部屋の扉があった。

「こちらにお入りください」

部屋にあったベッドの座った。

シードは疲れ果てて

「はゝ疲れ

た」

「シード殿まずは簡単なご説明をさせていただきます」

「はい」

「まずこの場所はバランドール王国という王国
パーフェクトバリアキャッスル
です。中でもここは、最高司令部完全防衛城です」

「パーフェクトバリアキャッスル？」

「はい。いわゆる、どんな
攻撃も無効する城です。次にそのシード殿の手首につけている輪の
事を説明させていただきますますその輪は、ここでは騎士専用輪ナイトリングと言
います」

「ナイトリング！？」

「はい。ナイトリングとは2つの秘密があります。1
つ目は、いまここにいる城に入るときに必要とされます。身につけ
ていない場合この城に入ることができません」

「あ

あ、だからさっきいくら城のほうに歩いても近くならないわけだ」

「はい。そのような守りがもほどこされております。あともう1つの秘密はこの後に行われる集会でお話します」

「集会!？」

その集会って何の集会？」

「シード殿の歓迎会です」少女は冷静に答えた。

「歓迎会!？」シードは驚いた顔で言った。

「はい。このあと5時間後、集会が行われます。なので少し休んでいても構いませんが、遅刻なさないようお願いします」

「ああ、分かったけど場所は何処？」

「すみません。言い忘れていました。場所はこの部屋を出てずっと奥までまっすぐ進み、そこに分かれ道があるのでそこを右に進みます。そしてずっと奥に進むと大きな扉があるので、そこが集会場となっております」

答えた。

「・・・わかった」シードは不安げに

そして、少女はシードに伝え
終わり部屋を出ようとしたときシードが少女に問いかけた

「の？」

「君、名前なんてい

「ニーナと

申します」

「

じゃあ今から君のことニーナって呼んでもいい？」

「はい。では失礼します」と言い部屋を出て行った。

シードはベッドに寝っ転がりシードはつぶやいた
「ニーナか」

シードはいつの間にか眠ってしまっていた。

そしてこれが全ての始まりであった。

続く

？ プロローグ (後書き)

これからも書き続けようと思うので、応援よろしくお願いします。

?
現実（前書き）

?
現実

？ 現実

ピピピッ、ピピピッ目覚まし時計が鳴った。

シードは目覚ましをけし起きた。「あゝあ朝か」

「さっきの夢何だったんだろう」

「ってやばい、もうこんな時間！学校遅刻しちゃう！」

シードはあわわてて制服に着替え、パンを一枚口にはさんで急いで学校に向かった。

「キンコンカンコーン」学校の鐘が鳴った。

「ああ、これは遅刻だ」

シードは学校につき、自分のクラスのドアの前に立ち深呼吸をした。

「なんてったって、僕のクラスの担任の先生は鬼教師と言われている」

シードは教室の中に入ったとたん

「シード！！！！お前遅刻じゃないか！」相変わらず雷のような声が響き渡った。

「シード！遅刻したから廊下10往復雑巾がけをして来い！」

シードは心の中で思った（はつまじかよ！）

「分かりました・・・」

「よし！じゃあやってこい！」

「はい・・・」

そして、シードは廊下10往復雑巾がけを終えた。

「はゝ疲れた」

シードは教室に戻った。

「先生雑巾がけ終わりました」

「よし！じゃあ席に座れもう遅刻はするなよ！」

「はい・・・」

こんなことから始まり、部活も終えた後シードは家に帰った。

「ただいま」

「おかえり」

シードは風呂に入り夕食を食べ終わった。

「ああ、今日も疲れたな」

シードは目覚まし時計をセットしてまた夢の世界に入っていった。
続

？
選ばれし騎士たち（前書き）

？
選ばれし騎士たち

？ 選ばれし騎士たち

僕はまた夢の世界にいた。

「ここは何処だ？」

シードはベッドの上で眠ってしまっていた。

「前に見た夢と同じ場所だ。あれ、ここは城だ。でもなにか忘れてる気がする。ああ！そうだ集会だ！集会まであと何時間だ？ってあと1分しかない！まずいぞこれ！」

シードはあわてて部屋から出た。

「確かこの道をずっとまっすぐ」

シードはずっとまっすぐ走り分かれ道があった。

「ここどっちだっけ？そうだ右だ！」

シードは右に曲がりずっと奥に進み、そこには大きな扉があった。

「ここだ！」

シードはあわてて扉を開けた。

そしたら中は見たことがないくらい大きな集会場であった。

奥に5人の高校生ぐらいの人たちがいた。その隣にニーナがいた。

そしてさらに奥にこの城の王がかなり大きいイスに座り、隣に幹部らしき人がいた。

「遅いぞ8人目の騎士！」高校生ぐらいの女が言った。

「8人目の騎士？」シードは何の事だか分らなかった。

「まあこちらに来なさい8人目の騎士よ」王が冷静に言った。

「はっはい・・・」

シードは前に進み王の場所まで行った。

「シードといったかな？」

「はっはい・・・」

「君は選ばれし8人目の騎士だ。まあ今はそれだけでも把握しておいてもらいたい」

「はっはい・・・」シードは心の中で（選ばれし8人目の騎士？）と思っていた。

「まあ急に言われてから理解できないのも仕方があるまいとりあえずそちらの6人の所へ行きなさい」

「はっはい」

シードは6人の所へ行った。

「まずそれぞれ自己紹介をしなさい」

「はい！じゃあ僕から2人目の騎士名前はラーム・スターです。よろしく！」

「じゃあ次は俺3人目の騎士名前はリーズ・ストロングだ。よろしく」

「じゃあ次私！4人目の騎士名前はホープ・リースです！よろしくね！」

「次私5人目の騎士名前はローズ・クラークだ。よろしく」

「私は6人目の騎士名前はニーナ・フォースです。よろしくお願いします」

シードは心の中で思った（えっ！ニーナって騎士なの？）

「はっはい。僕の名前はシード・アルテマです。よろしくお願いします」

「よろしく！！」5人が答えた。

「ではわしも自己紹介といこう。わしはこのバランドール王国の王名前はグランサー・ヨイスタークだ。よろしくシード君」

「はい。よろしくお願いします」

「そしてこのものが城の幹部イーブ・ラレスタだ」

「イーブ・ラレスタです。よろしくシード君」

「よろしくお願いします」

続

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4342m/>

騎士の剣 <8人の騎士たち>

2010年10月10日01時40分発行